



鹿児島県薩摩半島西岸から得られた九州 2 個体目のイモトフエダイ

久保田雄斗¹・伊東正英²・本村浩之³

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院農林水産学研究科（鹿児島市）
k6115478@kadai.jp² 笠沙町漁業協同組合（南さつま市）³ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)Received 09 November 2025
Revised 14 November 2025
Accepted 15 November 2025
Published 16 November 2025
DOI 10.34583/ichthy.61.0_11Yuto Kubota, Masahide Itou and Hiroyuki Motomura. 2025. Second Kyushu record of *Lutjanus xanthopinnis* (Perciformes: Lutjanidae) from the western Satsuma Peninsula, Kagoshima, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 61: 11–14.

Abstract

A single specimen (116.1 mm standard length) of the Yellowfin Snapper, *Lutjanus xanthopinnis* (Lutjanidae), distributed in the Indo-West Pacific Ocean, was collected from the coast of Kasasa, western Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan. In Japanese waters, the species has previously been recorded only from Uchinoura Bay (eastern Osumi Peninsula, Kagoshima mainland), Okinawa-jima island (Okinawa Islands), and Iriomote-jima island (Yaeyama Islands). Therefore, the presently reported specimen from Kasasa represents the second record of *L. xanthopinnis* from Kyushu.

フエダイ科フエダイ属魚類 (*Lutjanus* Bloch, 1790) は、これまでに日本近海から 26 種が記録されている（本村, 2025）。このうちイモトフエダイ *Lutjanus xanthopinnis* Iwatsuki, Tanaka and Allen, 2015 は、パキスタンから日本、韓国からインドネシアにかけてのインド・西太平洋から報告されている（Iwatsuki et al., 2015, 2017; Saha et al., 2018; Praveenraj et al., 2018; Habib and Islam, 2020; Gloerfelt-Tarp and Kailola, 2022; Vilasri et al., 2023; Zainal Abidin et al., 2024; Kim et al., 2025; Moazzam and Osmany 2025）。

2023 年 11 月に鹿児島県の薩摩半島西岸（南さつま市笠沙沖）から 1 個体のイモトフエダイが得られた。本種は国内においてこれまで、日向灘、沖縄島、および西表島から知られていた（田中ほか, 2010; Koeda et al., 2014; Iwatsuki

et al., 2015, 2017）。薩摩半島から得られた標本は九州からの 2 個体目ならびに日本からの 5 個体目の記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測は Allen and Talbot (1985) と Iwatsuki et al. (2015) にしたがった。標準体長（standard length）は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位まで行い、小数第 2 位を四捨五入した。計測値は体長に対する百分率で示した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村（2009）に準拠した。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影されたカラー写真（Fig. 1）に基づく。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本研究で用いた研究機関略号は、KAUM（鹿児島大学総合研究博物館）、MUFS（宮崎大学農学部海洋生物環境学科）、OMNH（大阪市立自然史博物館）、および URM（沖縄美ら島財団総合研究所）である。

***Lutjanus xanthopinnis* Iwatsuki, Tanaka and Allen, 2015
イモトフエダイ**
(Fig. 1)

標本 KAUM-I. 192233, 体長 116.1 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦高崎山地先, 31°26'00"N, 130°10'05"E, 水深 36 m, 定置網, 2023 年 11 月 21 日, 伊東正英採集。

記載 計数形質：背鰭条数 X, 13; 臀鰭条数 III, 8; 胸鰭条数 17; 側線鱗数 50; 側線上方水平列鱗数 6; 頬部鱗列数 4; 側線上方横列鱗数 6.5; 側線下方横列鱗数 13.5; 第 1 鰓弓総鰓耙数 20。体各部測定値の標準体長に対する割合（%）：体高 36.8; 背鰭第 1 棘条体高 33.0; 頭長 35.2; 体幅 14.2; 吻長 9.2; 眼窩径 12.0; 眼径（眼球の露出部の径）9.6; 両眼間隔 8.3; 両眼間隔（膜を含む）9.4; 上顎長 15.8; 眼下骨高 6.1; 尾柄高 12.0; 尾柄長 20.8; 背鰭前長 33.7; 臀鰭前長 66.1; 腹鰭前長 30.9; 背鰭基底長 47.0; 臀鰭基底長



Fig. 1. Fresh specimen of *Lutjanus xanthopinnis* (KAUM-I. 192233, 116.1 mm SL) from the western Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan.

14.9; 尾鰭長 20.4; 腹鰭棘条長 13.1; 腹鰭長 19.5; 胸鰭長 28.9; 背鰭第 1 棘条長 5.5; 背鰭第 2 棘条長 11.2; 背鰭第 3 棘条長 13.1; 背鰭第 4 棘条長 14.0; 背鰭第 5 棘条長 13.8; 背鰭第 6 棘条長 11.8; 背鰭第 1 軟条長 10.1; 臀鰭第 1 棘条長 5.5; 臀鰭第 2 棘条長 12.3; 臀鰭第 3 棘条長 13.3; 臀鰭第 1 軟条長 13.6.

体は前後に向かって長い楕円形で側扁する。体背縁の輪郭は吻端から瞳孔後端直上までは直線状をなして緩やかに上昇し、そこから背鰭基底後端までは上方向に緩やかに膨らんだ弧状で、背鰭基底後端から尾柄部後端にかけて緩やかに下降する。体腹縁の輪郭は下顎先端から腹鰭起部まで下降し、そこから臀鰭起部までは直線状で体軸とほぼ並行し、臀鰭起部から尾柄部後端までは緩やかに上昇する。

眼は大きく正円形。鼻孔は 2 対で、前鼻孔と後鼻孔は近接し、眼の前方に位置する。前鼻孔は正円形で、後鼻孔は楕円形。上顎先端は下顎先端のほぼ直上に位置し、上顎後端は眼窩前縁直下を越えるが眼窩中央直下にはわずかに達しない。両顎歯は犬歯状で 1 列に並び、上顎の歯列前端の 1 対はやや大きく発達する。鋤骨は三日月状の歯帯をなし、中央部が後方に突出する。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、下縁には埋没した小鱗がある。背鰭前方被鱗域は両眼間隔の中央付近まで伸長する。頭部は背鰭前方被鱗域と吻部の間と下顎が無鱗で、その他部位は被鱗する。側線は完全で、主鰓蓋骨基部上端から尾鰭基底中央にかけて体背縁輪郭に並走する。側線上方の鱗列は後背方へ向かって明瞭に斜走

する。背鰭および臀鰭の軟条部と尾鰭の基底は被鱗する。背鰭は 1 基で、背鰭起部は腹鰭起部直上よりわずかに後方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上よりわずかに後方に位置する。背鰭棘は第 4 棘が最長。背鰭棘部の鰭膜の切れ込みは前部ほど深く、後部ほど浅い。臀鰭起部は背鰭の最終棘の基部より後方に位置する。臀鰭棘は第 3 棘が最長。臀鰭軟条部外縁の輪郭は円みを帯びる。胸鰭はやや鎌状で、後端は背鰭第 9 棘基部直下に達する。胸鰭基底上端は主鰓蓋骨後端よりも前方、胸鰭基底下端は主鰓蓋骨後端のほぼ直下にそれぞれ位置する。腹鰭起部は主鰓蓋骨後端直下よりやや前方に位置する。尾鰭は中央部がわずかに湾入した截形。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 体側面の地色はピンクがかかった銀白色で、背面側では灰褐色みを帯び、腹面に向かうほど明るくなる。頭部は赤みがやや強い。体側に明瞭な黄色縦線を 12 列有し、側線上方の線は後上方に向かって斜走し、側線下方の線は体軸にほぼ並行で、ほぼ等間隔に走る。縦線の幅はほぼ等しく、側線下方 3 列目の 1 本のみやや太いが、いずれも 1 鱗列幅以内にとどまる。各鰭鰭膜はいずれも半透明で、背鰭、臀鰭、および尾鰭は基底部から縁辺にかけて明瞭な黄色を呈する。背鰭の棘と軟条はともに黄色。胸鰭縁辺はほぼ無色で、基底から中央部にかけて黄色味がかかる。腹鰭は棘と第 1 軟条は黄色味がかかり、ほかは白色。臀鰭は第 1 棘と第 2 棘が白く、ほかは黄色。虹彩は紅色であり、やや光沢を伴う。瞳孔は黒色。

分布 本種はこれまでにパキスタン、スリランカ、バングラデシュ、アンダマン諸島、マレー半島東岸、タイ湾北部、インドネシア、韓国、台湾、および日本から報告されている (Iwatsuki et al., 2015, 2017; Saha et al., 2018; Praveenraj et al., 2018; Habib and Islam, 2020; Gloerfelt-Tarp and Kailola, 2022; Vilasri et al., 2023; Zainal Abidin et al., 2024; Kim et al., 2025; Moazzam and Osmany 2025). 国内からはこれまでに鹿児島県大隅半島東岸 (内之浦湾)、沖縄県沖縄諸島 (沖縄島)、および八重山諸島 (西表島) から記録されており (田中ほか, 2010; Koeda et al., 2014; Iwatsuki et al., 2015, 2017; 詳細は備考を参照), 本研究により新たに鹿児島県の薩摩半島西岸 (南さつま市) から確認された。

備考 本報告で記載した標本は、背鰭条数が X, 13 であること、臀鰭条数が III, 8 であること、胸鰭条数が 17 であること、側線鱗数が 50 であること、側線上方水平列鱗数が 6 であること、頬部鱗列数が 4 であること、前鰓蓋骨下縁に埋没した小鱗をもつこと、吻部に円形と楕円形の鼻孔が 1 対ずつ存在し、いずれの鼻孔外縁においても目立つ皮弁がないこと、背鰭前方被鱗域が両眼間隔域にまで伸長していること、体側の黄色縦線がほぼ均一幅であり、やや太い中央線も 1 鱗列以内であること、および各鰭が主に黄色であることが Iwatsuki et al. (2015) の示したイモトフエダイ *Lutjanus xanthopinnis* の特徴によく一致したため、本種に同定された。一方で、本研究で得られた標本は第 1 鰓弓における総鰓耙数が 20 であり、Iwatsuki et al. (2015) が 11 標本に基づき示した *L. xanthopinnis* の値 (22–23) と異なる。しかし、田中ほか (2010) は西表島から得られたイモトフエダイの総鰓耙数を 19 と報告しており、本研究で得られた値は既知の変異範囲 (19–23) に含まれる。

田中ほか (2010) は西表島から得られた標本 (OMNH-P 35502, 体長 154.6 mm) を *Lutjanus madras* (Valenciennes, 1831) に同定し、標準和名イモトフエダイを提唱した。その後、Iwatsuki et al. (2015) は鹿児島県内之浦湾産の標本 (MUFS 33019, 現 KAUM-I. 169773, 体長 160 mm) に基づき *L. xanthopinnis* を新種として記載した。その際、田中ほか (2010) が *L. madras* としたものは *L. xanthopinnis* であることに言及し、*L. xanthopinnis* の標準和名としてイモトフエダイを適用した。*Lutjanus xanthopinnis* は *L. madras* と同様に犬歯状歯をもつこと、鋤骨が三日月状の歯帯をなし、中央部が後方に突出すること、および成魚の体側に黄色から褐色の縦線をもつ特徴を共有しておりよく似る。しかし、*L. xanthopinnis* は前鰓蓋下縁に数枚の小鱗が埋没していること (*L. madras* では無鱗)、頬部に 4–5 列の鱗が並ぶこと (7–8)、および成魚の体側に走る黄色から褐色の縦線がほぼ等幅であること (中央の縦線が 1.5–3 鱗列程度の幅があり太い) から識別される (Iwatsuki et al., 2015)。

また、Koeda et al. (2014) は沖縄県の沖縄島 (URM-P

47594, 体長 191.8 mm) と西表島 (URM-P 47593, 体長 149.2 mm) から得られた 2 標本をイモトフエダイ *L. madras* として報告した。分布域を考慮するとこれらは *L. xanthopinnis* に再同定される可能性が高く、実際 Koeda et al. (2014) に示された標徴は生鮮時の色彩において *L. xanthopinnis* と概ね一致する。一方で、背鰭鰭条数が X, 12 (*L. xanthopinnis* は X, 13) であること、側線鱗数が 46–47 (48–50) であること、および頬部鱗列数が 5–6 (4–5) であることが、これらの形質に言及している既報 (田中ほか, 2010; Iwatsuki et al., 2015; Saha et al., 2018; Praveenraj et al., 2018; Kim et al., 2025) の示した *L. xanthopinnis* と一致しなかった。そのため、本研究でこれら 2 標本 (URM-P 47593, 47594) を再検討した結果、前鰓蓋骨下縁に埋没した小鱗をもつこと、吻部に円形と楕円形の鼻孔が 1 対ずつ存在し、いずれの鼻孔外縁においても目立つ皮弁がないこと、および背鰭前方被鱗域が両眼間隔域にまで伸長していることから、*L. xanthopinnis* であると確認された。一方で、既知の変異範囲とは一致しなかった上記の計数形質の値は、本研究による再調査でも認められ、本種のこれまでに知られていた計数形質の変異範囲がより広いことが確認された。

本種の日本国内における記録については、分布の項にて述べたとおり、九州では大隅半島の内之浦湾から得られた 1 個体 (ホロタイプ) のみ報告されている (Iwatsuki et al., 2015)。日向灘産魚類のチェックリストである Iwatsuki et al. (2017) にも本種の記述があるものの、その根拠になったと考えられる MUFS 標本台帳に登録されている該当海域産イモトフエダイは内之浦湾から得られたホロタイプのみである。したがって、本研究で得られた標本 (KAUM-I. 192233) は、九州沿岸からのイモトフエダイの 2 個体目の記録となる。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学大学院連合農学研究科の佐藤智水氏には原稿に対し適切な助言をいただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさまには、標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。一般財団法人沖縄美ら島財団の宮本 圭氏には、標本の借用に際して多大なご協力をいただくとともに、Ichthy 担当編集委員として原稿に対して適切な助言をいただいた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087)、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島における

グローバル教育研究拠点形成」, および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- Allen, G. R. and F. H. Talbot. 1985. Review of the snappers of the genus *Lutjanus* (Pisces: Lutjanidae) from the Indo-Pacific, with the description of a new species. *Indo-Pacific Fishes*, 11: 1–87, pls. 1–10.
- Gloerfelt-Tarp, T. and P. J. Kailola. 2022. Trawled fishes of southern Indonesia and northwestern Australia. Online version. x + 422 pp. [URL](#) (3 Aug. 2025)
- Habib, K. A. and M. J. Islam. 2020. An updated checklist of marine fishes of Bangladesh. *Bangladesh Journal of Fisheries*, 32: 357–367.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55.
- Iwatsuki, Y., F. Tanaka and G. R. Allen. 2015. *Lutjanus xanthopinnis*, a new species of snapper (Pisces: Lutjanidae) from the Indo-west Pacific, with a redescription of *Lutjanus madras* (Valenciennes 1831). *Journal of the Ocean Science Foundation*, 17: 22–42.
- Kim, M.-S., K.-J. Kim, M.-H. Jang and J.-G. Kim. 2025. First record of yellowfin snapper, *Lutjanus xanthopinnis* (Actinopterygii, Perciformes, Lutjanidae), from Jeju-do Island, Korea. *Acta Ichthyologica et Piscatoria*, 55: 89–92.
- Koeda, K., K. Tsuzaki, N. Hayashida and K. Tachihara. 2014. First records of two rare snappers, *Lutjanus madras* and *L. dodecacanthoides*, from Okinawan waters. *Fauna Ryukyuana*, 14: 1–6.
- Moazzam, M. and H. B. Osmany. 2025. A review of families Lutjanidae (snappers) and Caesionidae (fusiliers) (order Perciformes) from Pakistan. *International Journal of Biology and Biotechnology*, 22: 333–368.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 33. [URL](#)
- Praveenraj, J., N. Daniel, R. Kiruba-Sankar and S. S. Mishra. 2018. First record of *Lutjanus xanthopinnis* (Perciformes: Lutjanidae) from the Andaman Islands, India. *Acta Ichthyologica et Piscatoria*, 48: 393–397.
- Saha, S., S. Chakraborty, S. Sehrin, A. Al-Masud, K. A. Habib and M. A. Baki. 2018. New records of two *Lutjanus* species (Teleostei: Perciformes: Lutjanidae) with re-description of six lutjanids from Saint Martin's Island of the Bay of Bengal, Bangladesh. *Bangladesh Journal of Zoology*, 46: 239–253.
- 田中文也・鈴木寿之・岩槻幸雄. 2010. 日本初記録のフエダイ科フエダイ属魚類イモトフエダイ (新称) *Lutjanus madras*. 大阪市立自然史博物館研究報告, 64: 15–17.
- Vilasri, V., S. Pattarapongpan, B. Russell, K. Obata and T. Kawai. 2023. Checklist of fishes collected by bottom otter-trawling from upper Gulf of Thailand by MV-SEAFDEC 2 cruise in December 2019. *Thailand Natural History Museum Journal*, 17: 67–104.
- Zainal Abidin, D. H., S. A. M. Nor, Y. G. Seah, M. S. Ali, J. A. F. Jamaluddin, M. A. Rahim, N. S. Zulkifly, M. P. Tan, K. Md Zain and T. N. A. Mat Jaafar. 2024. An odyssey of integrative taxonomy unveils marine fish diversity, new records and cryptic species in Malaysian waters. *Zoological Studies*, 63: 30.